

レファレンスコーナー

調査・相談カウンターに寄せられたレファレンスの中から、郷土に関わる事例を紹介します。



Q. 函館戦争に参加した杜稜隊^{とりょうたい}について知りたい。

※杜稜隊の“稜”の字を、“陵”とする資料もあります。

幕末期から戊辰戦争にいたる間に数多くの部隊が結成されました。南部藩出身の諸隊も存在し、それらひとつに杜稜隊があります。『幕末維新史事典』には、以下のように記載されています。

【隊名】杜稜隊

【藩または出身地】南部藩 【隊長(総督)】伊藤善次

【隊員数】74名 【結成/解散】慶応4年/明治2年

【隊の特徴および主たる戦闘】仙台藩の降伏を機会に脱藩して北海道へ渡る。五稜郭の警備にあたり、有川付近の戦闘に参加した。

一方、『幕末維新戊辰戦争事典』には、「杜稜隊は蝦夷地で結成」との記載があり、「杜陵」には“もりおか”のルビがありました。そのほか、箱館戦争における杜稜隊の参戦の様子については、『幕末維新戊辰戦争事典』、『仙台叢書』、『幕末維新史料叢書4』にも記述が見られます。

また、隊員については、『箱館戦争始末記』の「箱館降伏人名簿」、『幕末維新史料叢書4』の「函館戦争義士人名録」に、数名の記載がありました。

【参考文献】()内は当館請求記号

『幕末維新史事典』神谷次郎 || 編 新人物往来社 || 発行 1983年(R210.61/カ6/1)

『幕末維新戊辰戦争事典』太田俊穂 || 監修 新人物往来社 || 発行 1980年(K206/オ2/4)

『仙台叢書』仙台叢書刊行会 || 編集・発行 1936年(212.3/セ3/3-1)

『幕末維新史料叢書4』松平慶永ほか || 著 人物往来社 || 発行 1968年(210.59/ハ1/4)

『箱館戦争始末記』栗賀大介 || 著 新人物往来社 || 発行 1973年(210.6/ク1/1)

Q. 大正初期に盛岡—宮古間に定期バスを運行させていた、盛宮自動車株式会社^{もりみや}について調べたい。当時の車やバスの写真があれば見たい。

盛岡と宮古を定期運行する盛宮自動車株式会社(前身:盛宮馬車株式会社)は、大正元年(1912)10月に設立されました。宮古町乙第一地割に本社、盛岡市鉦屋町に支店が置かれ、取締役は宮古町の菊池長右衛門を中心に5人いたそうです。バスは、菊池長右衛門がイタリアから購入したもので、翌2年(1913)の6月に初運行。当時、宮古街道を行く宮古—盛岡間の馬車運行が、まる一日がかりであったのが、バスによって4時間で結ばれたとあります。

しかし、宮古街道では事故が続出し、大正3年7月には新渡戸稲造を乗せたバスが崖から転落し、新渡戸稲造を含むおよそ10名が重軽傷を負いました。なお、このときの事故は、岩手県内での車の交通事故第1号といわれています。

【参考文献】()内は当館請求記号 ※ 写真掲載

『岩手近代百年史』森嘉兵衛 || 著 岩手県 || 発行 1974年(K206/モ1/2)

『図説盛岡四百年 下巻I』吉田義昭・及川和哉 || 編著 郷土文化研究会 || 発行 1991年(K211/ヨ1/4-2)※

『盛岡明治・大正・昭和「事始め百話」』吉田義昭 || 編 郷土文化研究会 || 発行 1995年(K211/ヨ1/5)※

『写真集 明治大正昭和 宮古』花坂蔵之助 || 編 国書刊行会 || 発行 1979年(K265.1/ハ2/2)※

『宮古のあゆみ』宮古郷土誌編集委員 || 編 宮古市役所 || 発行 1974年(K265.1/ミ1/2)※

『岩手のバスいまむかし』鈴木文彦 || 著 クラッセ || 発行 2004年(K685.5/ス*)

『永遠の青年新渡戸稲造』内川永一郎 || 著 新渡戸稲造基金 || 発行 2002年(K289.1/ニト)



☆調査・相談カウンターでは、協力レファレンスを受け付けております。お気軽にご利用ください☆